＊PCB00V-15H＊

＊＊2020年 7月（第6版）
＊2017年 5月（第5版 新記載要領に基づく改訂）

医療機器承認番号：22500BZX00366000

機械器具72　視力補正用レンズ
高度管理医療機器　挿入器付後房レンズ　JMDNコード：35658400

テクニス オプティブルー iTec

再使用禁止

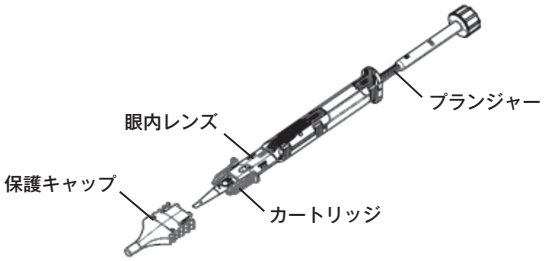
（PCB00V）

【禁忌・禁止】
使用方法
（1）再使用禁止。
（2）再滅菌禁止。

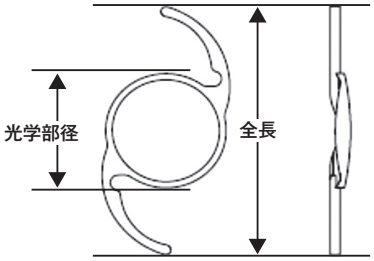
＊＊【形状・構造及び原理等】

1．形状

［専用挿入器］



［眼内レンズ］



光　学　部　径	6.0mm
全　　長	13.0mm

2．原材料

［専用挿入器］
カートリッジ：ポリプロピレン

［眼内レンズ］
紫外線・紫色光吸収剤含有アクリル－メタクリル架橋共重合体
紫外線吸収剤：ベンゾフェノン系、ベンゾトリアゾール系
紫色光吸収剤：メチン系色素

3．原理

本品は無水晶体眼の視力補正のために、水晶体の代用として眼球後房に挿入される後房レンズが予め専用挿入器に装填されている挿入システムである。

【使用目的又は効果】

無水晶体眼の視力補正

【使用方法等】

1．使用方法

無菌的に取り出し、無水晶体眼に挿入する。

2．使用方法に関連する使用上の注意

（1）使用にあたっては、〈本品の取り扱いについて〉の項に従うこと。
（2）本品は後房に挿入すること。［前房への挿入の安全性及び有効性は確認されていない］
（3）開封前に、眼内レンズの種類、度数及び使用期限（使用期限は外箱上側面ラベルにUSE BY/⌛で記載）についての表示を確認すること。［種類や度数が異なった眼内レンズを使用した場合、摘出交換手術が必要になるおそれがある］
（4）挿入前に、本品に損傷、異物や塵埃等付着物、その他の異常がないことを確認すること。［破損している眼内レンズを挿入した場合、組織の侵襲あるいは眼内レンズの固定状態に影響するおそれがある。また、異物等が付着したまま眼内に挿入されると、術後炎症を引き起こすおそれがある］
（5）眼内レンズは一定のスピードで押し進め、勢いよく押し出さないこと。［眼内組織を損傷するおそれがある］
（6）眼内レンズを押し進める際は、眼内レンズが完全に開放されるまでプランジャーを戻さないこと。［眼内組織を損傷するおそれがある］
（7）眼内挿入時に著しい抵抗を感じた場合は、使用を中止すること。［眼内組織を損傷するおそれがある］
（8）カートリッジの先端部は繊細な構造のため、取り扱いには十分注意すること。
（9）一度外した保護キャップは元に戻さないこと。
（10）眼粘弾剤使用時は、眼内レンズを眼内レンズのイラストに合う位置まで押し進めた状態で30秒～10分置くこと。眼灌流液使用時は放置する必要はない。
（11）プランジャーを完全に黒の目印が見えなくなるまで押し進め、ロックした状態で1分以上置かないこと。
（12）眼粘弾剤又は眼灌流液の注入量が少ないとカートリッジの潤滑性が十分に得られず、眼内レンズの放出がゆっくりになることがある。また、手術室の温度が低い場合又は高度数の場合も同様な事象が発生することがある。
（13）本品を挿入するときは、ベベルが下向きになっていることを確認すること。
（14）本品は嚢内固定すること。毛様溝固定の安全性及び有効性は確認されていない。
（15）本品を挿入するときは、支持部の向きに注意し、正しく挿入されていることを確認すること（支持部の向きが形状の項に記載されているとおりになっていること）。
（16）操作途中で眼内レンズの挿入を中止した場合でも本品又は眼内レンズは再使用しないこと。

【使用上の注意】

1．使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

(1) 小児（「重要な基本的注意」の項参照）
(2) 角膜内皮障害
(3) 緑内障
(4) ぶどう膜炎
(5) 糖尿病網膜症
(6) 網膜剥離
(7) 先天性眼異常
(8) 脈絡膜出血
(9) 浅前房
(10) 小眼球
(11) 角膜ジストロフィ
(12) 視神経萎縮
(13) 高眼圧
(14) 散瞳不良
(15) 弱視
(16) 角膜移植の既往のあるもの
(17) 虹彩炎
(18) 角膜異常
(19) 黄斑変性症
(20) 網膜変性症
(21) アトピー性疾患
(22) 偽落屑症候群及びチン小帯脆弱例
(23) チン小帯断裂及び水晶体脱臼（亜脱臼を含む）
(24) 虹彩血管新生
(25) 重篤な術中の有害事象発生症例
(26) 後嚢破損
(27) 眼内レンズが後眼部の観察、診断、治療に影響を与える症例
(28) 眼部炎症疾患
(29) 感染症
(30) 眼内レンズの固定が困難な患者
(31) 眼内レンズ挿入時に角膜内皮を損傷する可能性がある場合

［(2)～(31) 原疾患の悪化やその他有害事象が発現しやすくなる可能性があるため］

2．重要な基本的注意

(1) 手術に先立ち、本品挿入の対象となる患者に、本品の使用に伴って予期される効果と有害事象等について十分に説明すること。
(2) 使用注意にあたる患者については、合併症の発生率が高くなる可能性や、十分な視力が得られない可能性があるため、十分な設備と使用経験を持つ眼科専門医のもとで、術後のフォローアップを含め適切に適用すること。
(3) 小児については、小児の特性等について十分な知識と経験を有する眼科専門医のもとで眼内レンズ挿入術を行うこと。特に２歳未満の小児においては、眼球のサイズから器具の挿入や操作が難しくなること、成長に伴う眼軸長の変化によって再手術の可能性が高くなることが報告されていることからも、その旨を含めた十分なインフォームドコンセントを保護者に対して行うとともに、リスクとベネフィットを考慮の上で慎重に適用すること。
(4) 活動期にあるぶどう膜炎や小児のぶどう膜炎患者については、外科的侵襲を加えることで、ぶどう膜炎の悪化や新たな合併症を引き起こすおそれがあるため、あらかじめ薬物治療を行い、炎症を鎮静化させた上で、眼内レンズ挿入術を行うこと。
(5) 本品の使用に際して、メチルセルロース系眼粘弾剤との有効性は実証されていないため、メチルセルロース系眼粘弾剤の使用は推奨しない。

3．不具合・有害事象

眼内レンズ挿入術に伴い、以下のような不具合・有害事象が発生することがある。その際、レンズ挿入中止や摘出・再挿入が必要になる他、場合によっては、失明または不可逆的な視力障害等の重大な健康被害をきたすおそれがある。

［その他の不具合］

(1) レンズ光学部損傷（破損、キズ等）
(2) レンズ支持部損傷（破損、脱落、変形等）
(3) レンズ表面への異物付着
(4) レンズ表面反射
(5) レンズ光学部の変色・偽着色
(6) レンズ混濁（グリスニングを含む）
(7) レンズ偏位
(8) レンズ脱臼
(9) レンズ落下
(10) レンズ詰まり
(11) カートリッジ損傷（破損、キズ、変形等）

［その他の有害事象］

(1) 角膜浮腫
(2) 角膜炎（角膜びらんを含む）
(3) 角膜内皮障害
(4) 急性角膜代償不全
(5) デスメ膜剥離
(6) 結膜炎・結膜下出血
(7) 前房出血
(8) 前房蓄膿
(9) 虹彩損傷
(10) 虹彩炎（虹彩毛様体炎）
(11) 虹彩癒着
(12) 虹彩脱出
(13) 瞳孔異常（ブロック、捕獲、変形、散大等）
(14) ぶどう膜炎
(15) チン小帯断裂
(16) 後嚢破損
(17) 後発白内障
(18) 硝子体出血・混濁
(19) 硝子体脱出
(20) 網膜組織（黄斑等）の剥離・円孔・裂孔等
(21) 網膜剥離
(22) 脈絡膜剥離
(23) 脈絡膜出血
(24) 黄斑浮腫・変性
(25) 駆逐性出血
(26) 眼内炎
(27) フィブリン析出
(28) 続発緑内障
(29) 眼圧上昇（一過性眼圧上昇、高眼圧を含む）
(30) 眼圧低下
(31) 色視症
(32) 視機能低下（視力・コントラスト感度）
(33) 予想屈折値誤差
(34) 創口閉鎖不全
(35) 硝子体嵌頓

4．その他の注意

(1) 本品に同封されている眼内レンズ患者用カードに必要事項を記入し、患者に提供すること。他の医療機関を受診する際は、眼内レンズ患者用カードを提示するよう患者を指導すること。

(2) 外箱に記載のA定数は参考値である。挿入レンズ度数を厳密に算定する場合には、使用装置や、経験等に基づき、独自の数値を計算すること。[1)～3)]

(3) 細隙灯検査において、眼内レンズが紫色又は青色に反射して見えることがある。この現象は着色剤の蛍光によるものであり安全性及び有効性に影響するものではない。

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

(1) 高温になる場所、ガス等の発生する場所には保管しないこと。5～35℃で保管すること。

(2) 揮発性の薬品に暴露しないよう注意すること。

【主要文献及び文献請求先】

＊1．主要文献

1) Holladay JT, et al : A three-part system for refining intraocular lens power calculations. J Cataract Refract Surg, **14** : 17-24, 1988.

2) Retzlaff JA, et al : Development of the SRK/T intraocular lens implant power calculation formula. J Cataract Refract Surg, **16** : 333-340, 1990. Erratum in : J Cataract Refract Surg, **16** : 528. 1990.

3) Hoffer KJ : The Hoffer Q formula : A comparison of theoretic and regression formulas. J Cataract Refract Surg, **19** : 700-712, 1993. Erratum in : J Cataract Refract Surg, **20** : 677, 1994. Erratum in : J Cataract Refract Surg, **33** : 2-3, 2007.

＊＊2．文献請求先

エイエムオー・ジャパン株式会社 東京支社
住所：〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
電話：03-4411-4902

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

＊＊［製造販売業者］

エイエムオー・ジャパン株式会社
電話：03-4411-4902

［製造業者］

エイエムオー フローニンゲン社
AMO Groningen BV オランダ

〈本品の取り扱いについて〉

①

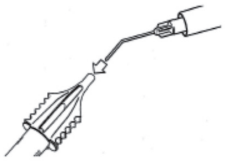


図1

保護キャップの先端に眼粘弾剤又は眼灌流液のカニューレを挿入し、カートリッジ内部に眼粘弾剤又は眼灌流液を充填する（図1）。ビューイングウィンドウ内が完全に満たされるまで充填する。

②

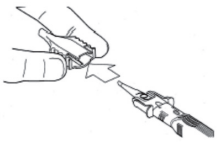


図2

保護キャップを外し、カートリッジに汚れや損傷がないことを確認する（図2）。

③

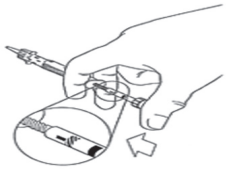


図3

眼粘弾剤又は眼灌流液を充填後、プランジャーをしま模様の目印が見えなくなるまでゆっくり押し進め、眼内レンズの位置が、カートリッジの上面に示されている眼内レンズのイラストに合う位置まで押し進める（図3）。眼粘弾剤使用時はこの状態で30秒～10分置く。眼灌流液使用時は放置する必要はない。

④

図4

完全にプランジャーの黒の目印が見えなくなり、これ以上進まないところまでプランジャーをゆっくり押し進める（図4）。プランジャーを軽く引き、ロックされていることを確認する。この状態で1分以上置かないこと。

⑤

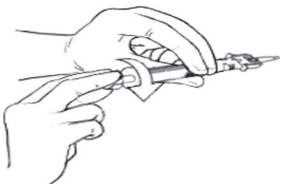


図5

カートリッジのベベルを下向きにして、切開創から挿入する。プランジャーのノブを時計回りにゆっくり回転させて眼内レンズを挿入する（図5）。眼内レンズが完全にカートリッジ先端部から放出されるまで、徐々に眼内レンズを進める。